

令和7年度 一番茶実収報告

高知県農業技術センター茶業試験場

1. 摘採日

本年	前年	平年
4月26日	4月20日	4月21日

注) 平年値は2020～2024年の平均値。以下同じ。

2. 生葉収量 (kg/10a)

本年		前年		平年	
収量	指数	収量	指数	収量	指数
229±57.6	78	265±16	91	292±49.7	100

注) 可搬型摘採機で約9m摘採し、算出。

3. 百芽重 (g)

本年		前年		平年	
重量	指数	重量	指数	重量	指数
41.4±3.0	115	28.1±2.1	78	36.0±8.2	100

4. 新芽数 (本/m²)

本年		前年		平年	
本数	指数	本数	指数	本数	指数
656±166	64	1,007±147	97	1,021±72.4	100

5. 出開度 (%)

本年	前年	平年
37.7	50.3	43.5

6. 概況

(1) 気象

気温： 萌芽期（4月第1半旬）から摘採期（4月第5半旬）の平均気温は、平年とほぼ同じだった。

降水量： 4月の降水量は平年よりも少なかった。平年値を100とすると、59%の降水量であった。

降霜： 作況調査ほ場において、一番茶萌芽期前の3月31日に0.3℃の低温に遭遇（低温遭遇）し、葉の軽微な褐変がみられた。萌芽期後の4月5日に2.8℃、4月6日に3.9℃の低温に遭遇し、畝の谷部の新芽の生育が遅れた。

(2) 茶芽の生育

摘採日は4月26日で、前年（4月20日）よりも6日遅く、平年（4月21日）よりも5日遅かった。収量は229kgで、平年の78%であった。百芽重は41.3gで、平年の115%であった。新芽数は656本で平年の64%であった。出開度は37.7%であった。

(3) 病害虫の発生状況

一番茶摘採期において作況園で病害虫による目立った被害はなかった。

令和7年度 一番茶萌芽状況報告

高知県農業技術センター茶業試験場

1. 萌芽期

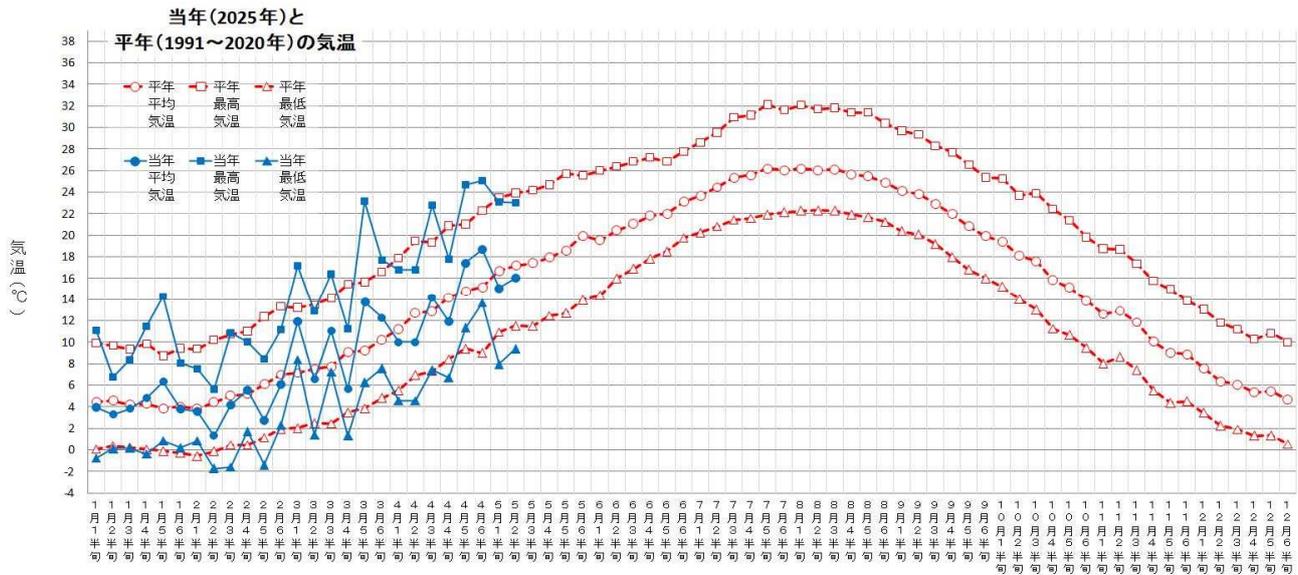
本年	前年	平年
4月4日	3月31日	3月27日

2. 新芽の伸長

	4月10日	4月15日	4月20日	4月25日
新芽長 (cm)	0.45±0.55	1.61±0.88	3.52±1.62	5.14±2.20
新葉数 (枚)	0.40±0.56	0.80±0.75	2.05±0.81	3.48±0.89

注) 霜害防止設備のない圃場で調査。

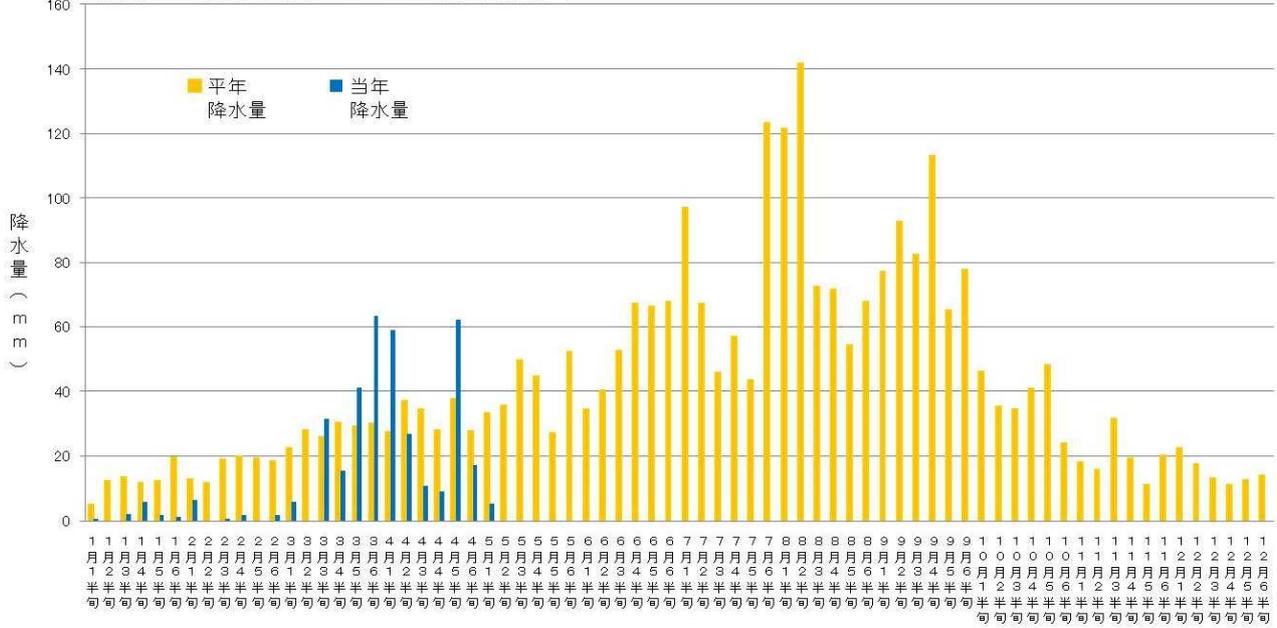
3. 気象グラフ



注) 平年値は1991~2020年までの30年の平均。

最低極温 本年 -4.0℃ (1月10日) 前年 -2.5℃ (1月24日)

当年(2025年)と平年(1991~2020年)の降水量



4. 供試園の条件

品 種	栽植密度	樹高	株張り	その他
やぶきた (54年生)	150cm×30cm (単条)	85.1cm	118cm	調査園変更 1年目

5. 概況

(1) 気象

気 温： 1月～2月は平年と比べて、概ね低い傾向であった。3月は概ね平年より高い傾向であったが、半旬ごとの平均気温差が大きく、寒暖の差が2回繰り返された(最大8.2℃)。萌芽期の4月第1半旬は平年より気温は1.2℃低かった。

降水量： 1～2月は平年よりも大幅に少なく、3月はやや少なかった。平年値を100とすると、1月で38%、2月で41%、3月で83%の降水量であった。

降 霜： 作況調査ほ場において、3月31日に0.3℃の低温により葉の軽微な褐変がみ(低温遭遇)られた。4月5日に2.8℃、4月6日に3.9℃の低温に遭遇し生育が遅れた。

(2) 茶芽の生長

萌芽期は4月4日で、前年(3月31日)と比べて4日、過去5年間の平均(3月27日)と比べて8日遅かった。低温遭遇により、畝の谷部の生育が遅れ、谷部の新芽長は、全体の34.5～70%だった(4月10日～25日)。